地版アクセス

毎月1回 1日発行 購読料 定価150円 (本体139円) 年間1,500円(税込み) 振替 00120-0-19017

発行所 ㈱地方・小出版流通センター 編集 アクセス編集委員会 〒 162-0836 東京都新宿区南町 20 TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

梓会出版文化賞の第30回記念特別賞を受賞して



文・みずのわ出版/みずのわ写真館/つちのわ物産 代表・柳原一徳

宮本常一のまなざしを通して、ふるさとの島 の過去・現在・未来を捉え直したい。

■ 離島振興に関わる仕事

昨年11月末、ミカン収穫が忙しくなりはじめたころ、「梓会出版文化賞第30回記念特別賞」受賞内定の連絡を戴いた。 創業18年目にして、賞と名のつくものを戴くのは初めてのこと。賞罰連戦連敗記録の終結と広島カープの優勝、どちらが先に来るか? などと言っていたのだが、「男猫もひょっと」より現実味のある話だった。とすれば、今年こそは汚い巨人を倒してカープが優勝するに違いないと、そうも思えてきた(私が巨人「軍」をネタにするとき、必ず「汚い」「ズルい」「セコい」などの枕詞がつく)。

選考対象期間内の刊行物で第2次審 香に提出したのは「島─瀬戸内海をある く 第3集 2007-2008 「馬毛島・青 ガ島のその後/離島と観光の問題 宮本 常一離島論集第4巻」「利尻島見聞/離 島振興の諸問題 宮本常一離島論集第3 巻」「神戸市戦災焼失区域図復刻版」の4 点で、実売数は「瀬戸内海」が130部、「宮 本常一離島論集」が各巻250部、「神戸」 が500部程度、いずれも売れない本であ る。全国離島振興協議会・公益財団法人 日本離島センター関係の書籍が4点中3 点を占める。宮本常一の離島振興論・島 嶼国家論を含め、世間の大半が見向きも しない離島振興に関わる仕事を評価して 戴けたのは、版元として、また島の住民 として有難い。

とはいえ、島の本が売れないことに変 わりはない。世に島旅好きは多いが、そ ういう人に限って実は島には住みたがら ない。島が住みやすいのが事実なら、住



「宮本常一の風景をあるく 周防大島 東和」周防大島文化交流センター編/ 978-4-86426-028-2 / 2500 円税別

みにくいというのもまた一面の事実である。その地に根を張って生きるという責任のないタビビトにとって島は興味深い場所ではあろうけれども、実際に生活を営む分には難儀なことのほうが多い。

■ 農を棄てた国は滅ぶ

東北大震災・福島第一原発爆発の半年後に神戸を引き払い、山口県周防大島の母方の実家に帰った。実は震災の翌日に大島に帰ったのが事実上の移転であり、正式移転までの半年間、殆ど神戸に戻らない生活をしていた。おカネを出せば何でも手に入る便利な都会で消費生活をこれ以上続けてはいけないと直感した。

過疎の原発立地地域ではなく、人・物・ 富・知、ありとあらゆるものが偏在する 首都圏の電力を賄ってきた福島第一原発 の爆発によってこの国は、戦争をしても いないのに、人口が養えるだけの土地と 肥沃な農地と海産資源、すなわち自国の 国土を未来永劫、喪失した。ところが中 央で政治に携わる人々は、売国としか言 いようのない TPP 交渉からも明らかな通 り、自国の農業を潰しても屁でもない、 他国から食糧を買ってくればよいと、そ の程度にしか物事を考えていない。某A 首相を筆頭に、ナントカの一つ覚えよろ しく口を開けば経済経済と大声大文字で まくしたてる連中の頭の中身なんて所詮 その程度のものだ。

私は雑用で立ち寄る農協の待合で、いつも「家の光」バックナンバーか野坂昭如の本を読む。農を棄てた国は滅ぶと野坂は言う。生前お世話になった農民文学者住井すゑも同じことを言っていた。住井の、その鋭い眼光を思い起こす。

■ミカンが支える島のくらし

いま、家の畑で可能な限りの自給自足をめざしつつ、細々と本を作り続けている。4年前に大島に移転した折、近い将来、耕作放棄の進むミカン畑を引き受けて農家兼業になる心づもりはしていた。が、篤農家で知られたカミさん方の伯父が衰え、耕作できなくなった畑の一部(2反=約20アール)を引き受けてはもらえまいかと相談を受けたのを機に、予定を早めて一昨年の秋からミカン耕作を始めた。「古本が古本を呼ぶ」(高橋輝次著、青弓社)ならぬ「ミカンがミカンを呼ぶ」という状況で、昨年の6月と9月に近隣で耕作できなくなった畑を引き受けることにもなり、耕作面積は7反にまで増え

た。

素人がいきなり本百姓になってそれなりに務まっているのは、子供の頃からの百姓経験が支えになっている。

私自身、幼少期にこの島で育ち、小学 校3年生から写専の学生時代にかけて、 祖母に連れられて近所の農家でミカン収 穫や選別、耕耘、施肥などの仕事をして きた。その農家のおっちゃんは、祖父母 が若いころから世話になってきた地元の 篤農家で、仕事をするなかで私にミカン 栽培の基礎を教えてくれた。児童労働と 解釈されると児童福祉法違反になるのか もしれないが、小学生の頃からミカンの 仕事で給料を戴いてきた。それは子供心 に誇りでもあった。写真学校に進学して 実習費の工面が大変だったが、ミカンの 稼ぎと野球場のバイトで賄った。祖母が ミカンで稼いだお金で、学費を援助して もらったこともある。大島では私より少 し下の世代までの多くの者が、ミカンの あがりで育ててもらったようなところが ある。

大島のミカン耕作面積は昭和40年代 半ばの最盛期には2400 町歩(約2400 ヘクタール) に達した。 耕して天に至る と言われたほどで、島の面積のおよそ2 割をミカン畑が占めていた。 いまは 600 町歩。生産量も最盛期の8万7000トン が、5000~6000トン程度にまで減少 した。とはいえ、いまだミカンに取って 代わる有力な「外貨」獲得手段はない。 観光振興も必要な手段ではあるが、観光 による離島振興など成り立ち得ないとい うことは戦後の離島振興運動の歴史が既 に証明している。産業振興によってしか 離島振興は成り立ち得ない。戦後ミカン が軌道に乗ることで、それまで「賄い農 業」でしかなかった大島の農業は初めて 第一次産業になり得た。左前とはいえ、 いまもなおミカンはこの島を支える地場 産業である。梓会の今回の特別賞も、ミ カン耕作と写真館兼業で出版を維持して きた経緯が評価された面があるという。 こんなところでも、ミカンに支えられて いる。

■ 経験知と書物知

待ったなしで、素人がいきなり本百姓になった。営農講習に通って基礎から勉強したのであるが、そういった書物知は、経験知があって初めて吸収できるものである。

人が人として生きるうえで不可欠なものは経験知、すなわち非識字の文化である。生活経験のなかで積み上げられた経験知の上に、書物知、すなわち識字の文化が上乗せされる。本から得た知識ばかり大上段に振りかざしたのでは、地に足の着かない空中戦になる。

神戸を見限って大島に帰ったころ、まず自宅敷地内の畑の再生から手をつけた。敷地内に半畝(約0.5アール)ばかりの畑があり、祖母存命中は家で食べる野菜類は殆ど自前で賄ってきた。2000年春に祖母が亡くなり、家は10年ほど無人になった。畑を荒らさないようにとカボス、ユズなどの香酸柑橘類を植えて月一度の帰省のたびに草ひきに精出したのだが、日常的にきちんと面倒をみない畑では芳しい成果が上がろうはずはなかった。

腰を据えて畑を再生するにあたり、化学肥料に頼らない循環可能な農業が実践できないものかと考えた。印南敏秀編著「里海」三部作(「里海の生活誌」「里海の自然と生活1・2」小社刊、2010-2012年)の刊行に携わったこともあり、上記三部作で重要なキーワードとして採り上げられた雑藻(海藻・海草)の活用、かつて全国の海辺で当り前に見られた生活文化を取り戻すことから始めてみようと思い立った。

浜に寄る藻を拾って乾して、畑の肥やしにする。冬場から春先にかけて、深夜強風が吹いたり海が時化たとき、翌朝早く浜に出る。寄り藻ついでに、千切れたワカメやヒジキも流れ着く。持ち帰って食用にする。湯掻いて冷凍すれば半年はもつ。朝から遊んでいるようにも映るが、海に出る楽しみ、作る楽しみ、食べる楽しみとかいったものと抱き合わせでないと、こういうものは長続きしない。

戦後、埋立てによる渚の消失、藻場の減少、化学肥料の普及、さらには担い手の減少といった変化によって伝統的生活文化は途絶えてしまい、実際に藻を肥やしに使った経験を持つ世代は、大島でももういない。今の年寄り世代は化学肥料万能で育ったわけで、そういう人らに聞いてみると、みなさん伝承として知ってはいるが、自身の体験としてのそれはない。わが実験農場で取り組んでみる分には、トライ・アンド・エラーのなかで私自身の経験知を積み上げていくしかなかった。

わが家のたかだか半畝の家庭菜園に一度入れるのに必要な乾燥藻がおよそ20キロ。1 反換算で400キロになる。かかる労力と必要とする寄り藻の量から考えると、家庭菜園ならまだしも、これで農業経営を成り立たせるのは不可能だ。昔は多くの農家が藻を採っていた。それほどまでに昔の海は豊かであったし、島の担い手も質量ともに多かった。戦後70年の変化のなかで、果たして何が断ち切られたのか。海里山の循環する生活文化を取り戻す試みから、島の来し方と現在、そして未来に向けた課題がみえてくる。

■宮本常一のまなざしの先にあるもの

宮本常一のまなざしを通して、ふるさと周防大島の過去・現在・未来を捉え直したい。この島を拓いてきた先人の労苦への畏敬と、島を守ってきた今ある人々への尊敬を伝え、これからの世代にとってこの大島に生きるということを考える端緒としたい。それはまた、周防大島という内海島嶼の一地域にとどまらず、崩壊に向かう島嶼国家日本の今日的課題を照射するものでもある。

そのような問題意識から出発して、昨年末「宮本常一の風景をあるく 周防大島」三部作(周防大島文化交流センター編)の刊行を開始した。昨年12月に「周防大島東和」を刊行、続いて今年秋に「周防大島入賀・橘・大島」、来年秋に「周防大島諸島」を刊行の予定である。

宮本が遺した昭和30~50年代の写真群は、高度成長期を経た人文景観の変化をとらえるのみならず、農山漁村人口の大半を都市労働者へ移動させるという朝鮮特需以降一貫した国策による地方、就中僻地の疲弊の行き着く先と地域社会崩壊の危機をも映し出す。宮本常一という類い稀なる思想家・実践家の確たる眼を通して、日本という島嶼国家の来し方といま、そして未来像を捉え直さねばなるまい。「宮本学」は未来学である。

本をめぐる環境が日に日に悪化し、地 方における人文書の出版が困難の度を深 めるなかにあって、絶望的ともいえる経 営縮小は不可避ではあるが、そうは言え ども、この僻地にあって、まだまだ看板 をおろすわけにはいかない。

*

(やなぎはら・いっとく=みずのわ出版/みずのわ写真館/つちのわ物産代表)

新刊ダイジェスト

※価格は税込(消費税率8%)表示です。



『評伝 赤崎 勇 その源流』●枚田 繁著



ノーベル物理学賞受賞記念講演で、「目に染みるような青色の光は、私の研究人生の中でも思い出深い出来事の一つだ」と、青年のように目を輝かして語った赤崎勇氏。85年の人生と60年がかりのノーベル賞への道のりを、時々の体験、時代状況、出会いの妙を浮かび上がらせて辿る。県立第二鹿児島中時代、西郷隆盛に連なる敬天会に加わり、生涯の精神的支柱となる「議(理屈)を言うな」「嘘をつくな」「弱いものをいじめるな」を学ぶ。京大入学の日、課程の助手から、大学は何かを教わるところでは

なく、将来、問題にぶつかった時に解決する術を自らつかみ取るところと教わる。勤労動員、学徒動員を経て、後のノーベル賞受賞者江崎玲於奈のいた神戸工業に就職。運命の"冷たい光"に出会う。その後、何れも先輩研究者の導きで名大、松下電器と移り"青"の実用化に挑戦。戻った名大で天野浩という稀有の弟子に恵まれる。「古風な学者」が弛まず篤実に貫いた一筋の道である。

◆ 1058 円・新書判・219 頁・**南方新社・**鹿児島・ 2015/1 刊・ISBN978-4-86124-310-3

『丸本武 作品集』●丸本 武著



6篇の散文詩と2つのルポ、その全頁にちりばめられたイラスト、そして4者の追悼文で編集された遺稿集。後半部はさしずめフォト・ジャーナルならぬイラスト・ジャーナルと言えようか。唯一とされるパレスチナ・キリスト教徒の難民キャンプでの取材力、繊細な幾何学模様

の中に浮かび上がる大きな瞳と深い彫りのエキゾ チックな女性のイラスト。それらからは、リスク を了解した胆力と、弱者への気遣いを惜しまない 優しさを兼ね備えた人柄が伺えよう。「心と魂が 結びついていないと、人生は空虚になり自尊心を 失ってしまう。自尊心がないと自分を愛すること ができず、他の人を本当に愛することができなく なる」ヒリヒリとした散文詩も印象的だ。

自らを放浪の亡命者たるボヘミアンと定め、安 寧に背を向けた生き方を歩んだ37年。時代情況 を考え合わせればなおのこと、イラストレーター、 ジャーナリスト、パフォーマー、その多彩な才能 が惜しまれてならない。

◆ 2484 円・B 5 判・71 頁・揺籃社・東京・ 2014/12 刊・ISBN 978-4-89708-349-0

『チロリのまなざし −奇跡をおこすセラピードッグ』●大木トオル/森本ちか著



わたしはチロリ、雑種犬の女の子です。 わたしは人を笑顔にできるセラピードッグの仕事が大好きです。チロリの言葉やまなざしは思いやりに満ちてあたたかい。老人ホームや病院、学校などでお年寄りや病気を抱えた人たちと触れ合い、弱った心と体を元気にしていくセラピードッグ。加えて被災地や仮説住宅への訪

問活動も行い、人々を励まし続けている。

本書は日本で初のセラピードッグとして活躍したチロリの絵本写真集。捨て犬で後足が不自

由だったが、世界的なブルースシンガーである 大木トオル氏に救われる。諦めずに目を見て心 で話しかけ続け、笑えるようになったおばあさ んや、歩けるようになったおじいさん。チロリ が得意だったアイコンタクトの素晴らしさが 写真から伝わってくる。残念ながらチロリは 2006年に亡くなってしまったが、"ずっとそば にいるからね"チロリの一人称で綴られた言葉 に誰しもが元気になれる。

◆ 1620 円・215mm × 275mm 判・32 頁・リーブル出版・高知・2014/12 刊・ISBN 978-4-86338-101-8

『「北洋」の誕生 -場と人と物語』●神長英輔著



「北洋」。聞かなくなって久しい言葉のような気もします。やはり「北洋」とくれば、「北洋漁業」でしょうか。本書はそんな「北洋」にまつわる歴史をたどっていきます。第一部ではロシアでの研究成果もふまえた北洋漁業の歴史を、第二部では北洋に関わった人々の姿を描いています。

しかし本書の最大の読みどころは第三部、「北 洋」という言葉の語られ方を探っていることで しょう。「北洋」という言葉が漁業と結びつい て使われるのは何故か? それは「北洋漁業」 が行われている場所が「北洋」だから。具体的な場所が想定されているわけでもなく、日本人が漁業に活躍するフィールドとして「北洋」という言葉が使われていたのです。時代によって「北洋」の指し示す場所が変化していることからも、それが伺えます。ひとつの物語として「北洋」をめぐる言説を問い直すことにより、日本人の北方観も見えてきます。そしてそれは北方領土問題の語りにも繋がっていきます。

◆ 3780 円・A 5 判・278 頁・**成文社・**神奈川・2014/12 刊・ISBN978-4-86520-008-9

『橋川文三 日本浪曼派の精神』●宮嶋繁明著



いまでは橋川文三 (1922-1983) を知る人はほとんどいないが、橋川は「普通の経歴でない」(丸山眞男)、「みごとな文体の保持者」(三島由紀夫)、「めずらしい文章家」(鶴見俊輔)で、「戦後を代表する思想家」(吉本隆明)である。

大正モダニズムが衰退し、プロレタリア文学も崩壊して、マルクス主義者さらにリベラルへと弾圧の矛先が向かうなかで、その間隙を埋めるようにして日本浪漫派が登場した。近代批判と古代賛歌を支柱として、保田與重郎らが「日本の伝統回帰」を提唱した文学思想である。

これに強い関心と賛同をもった橋川の貧困と 病の困難な半生を描きながら、昭和精神史研究 の名著『日本浪漫派批判』が、どのように誕生 したかを述べる。

一方で本書の面白さは、大塚久雄、鶴見俊輔、 井上光晴、吉本隆明、竹内好、白川健三郎、瓜 生忠夫、宗左近、野間宏、中村哲・・・といった錚々 たる面々と橋川の交流である。とくに丸山眞男 との濃密な関わりには驚かされる。

◆ 2484 円・四六判・317 頁・**弦書房**・福岡・ 2014/12 刊・ISBN978-4-86329-108-9

『「新編武蔵風土記稿」を読む』●重田正夫/白井哲哉編



武蔵国の歴史・民俗・地理・産業などを調べようとする場合に役立つのが『新編武蔵風土記稿』である。作成されたのは江戸後期の19世紀前半。幕府直営の事業で権力統制の一環であったが、活用されることもなく昌平黌と紅葉山文庫の二か所に保管したままだったという。武蔵国内約3000(江戸府外)の町村の情報を記録した地誌(全265巻)。現在、活字本と影印本(未完)が市町村の図書館で簡単に閲覧することができるが、本書はその案内書として最適である。とくに挿図を扱った第3章は興味を

ひく。寺社境内図は同時代の「江戸名所図会」同様、写実的な鳥瞰図で実に臨場感がある。中世の荘園絵図や社寺参詣曼荼羅と比較すると実に写実性に富んでいる。中世人と近世人の感性の違いか? 現代との関わり合いでいうと、渡船場図・関所図には描かれていた景観がスーパー堤防の建設により消滅したというくだりは未来に向かってどう進んでいったらいいか考えさせられる。

◆ 2160 円・A 5 判・255 頁・さきたま出版会・ 埼玉・2015/1 刊・ISBN 978-4-87891-415-7

地儿版

流通センター

ジャンル別 新刊案内

2015 年 1 月 1 日~ 31 日 流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は 所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込(消費税率8%)表示です。

【雑誌】

- ◆ゆきのまち通信 156 企画集 団ぷりずむ編 A5 50頁 500 円 企画集団ぷりずむ [青森] 978-4-503-20432-5 15/01
- ◆榛名団 13号 富沢 智編 A5 66頁 648円 榛名まほろば出版 [群馬] 978-4-503-20433-2 14/12
- ◆GREEN REPORT 421 廣瀬 仁編 A 4 192頁 2800円 地域環境ネット [埼玉]

978-4-905457-53-4 15/01

- ◆響き合う街で No. 71 やどかり出版編 B5 68頁 1296円 やどかり出版 [埼玉] 978-4-503-20452-3 14/11
- ◆**ほおづゑ** 第83号 福原 義春編 A5 141頁 600円 三好企 画 [千葉] 978-4-938740-97-9 15/01
- ◆子どもと昔話 No.62 小澤 俊夫編 A5 79頁 853円 小澤昔ばなし研究所 [神奈川] 978-4-902875-66-9 15/01
- **◆かまくら春秋** No. 537 伊

藤 玄二郎編 B6 92頁 320 円 かまくら春秋社 [神奈川] 978-4-7740-0644-4 15/01

- ◆洪水 第15号 池田 康編 B 5 136頁 1080円 草場書房 [神奈川] 978-4-902616-68-2 15/01
- ◆道 No. 183 木村 郁子編 A4 74頁 1234円 どう出版 [神奈川] 978-4-904464-60-1 15/01
- ◆オルタ 458 田中 滋編 B5 17頁 324円 アジア 太平洋資料センター [東京] 978-4-503-20456-1 14/12
- ◆オルタ 459 田中 滋編 B5 17頁 324円 アジア 太平洋資料センター [東京] 978-4-503-20461-5 15/01
- ◆アーカイブズ学研究 No. 2 1 日本アーカイブズ学会編 A 4 162 頁 2 1 6 0円 岩田書院 [東京] 978-4-503-20438-7 14/12
- ◆**武田氏研究** 第 5 1 号 武田氏研究会編 A 5 62 頁

売行良好書

期間: 2015年1月16日~2月15日

「出荷センター扱い」※価格は税込(消費税率8%)表示です。

(1) 『今日の漫画 史群アル仙作品集』1296 円・ナナロク社 (2) 『知られざる日本の地域力』1944 円・今井出版 (3) 『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1404 円・書籍情報社 (4) 『張り込み日記』2916 円・ナナロク社 (5) 『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する』864 円・リーブル出版 (6) 『今、この本を子どもの手に』1080 円・東京子ども図書館 (7) 『江若鉄道の思い出』1728 円・サンライズ出版 (8) 『ちょこっと 山梨のたちより温泉』1296 円・山梨日日新聞社 (9) 『デザインマンホール100選』1836 円・アットワークス (10) 『フーリエの冒険新装改訂版』3780 円・言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ (11) 『昭和映画屋渡世』2376 円・ごまめ書房 (12) 『瞽女 キクイとハル』2160 円・鉱脈社











[三省堂書店神保町本店 センター扱い図書] ※価格は税込(消費税率8%)表示です。

(1)『東京かわら版 2月号』432円・東京かわら版 (2)『本の雑誌 381号』720円・本の雑誌社 (3)『古本屋ツアー・イン・神保町』2160円・本の雑誌社 (4)『奥多摩登山詳細図 西編 全112コース』950円・吉備人出版 (5)『おすすめ文庫王国2015』821円・本の雑誌社 (6)『北海道地図の中の鉄路』6480円・亜璃西社 (7)『パズル・ザ・ジャイアント 28』1188円・ニコリ (8)『中学生の正しい勉強法』1296円・瀬谷出版 (9)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』823円・吉備人出版 (10)『張り込み日記』2916円・ナナロク社

[ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本一センター扱い図書] ※価格は税込 (消費税率8%) 表示です。

(1)『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する』864円・リーブル出版 (2)『北海道 地図の中の鉄路』6480円・亜璃西社 (3)『入門演習 パワーエレクトロニクス』3024円・EnergyChord (4)『奥多摩登山詳細図(西編)雲取山・三頭山・御前山・鷹ノ巣山 全112コース』950円・吉備人出版 (5)『東丹沢登山詳細図 大山・塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳 全110コース』926円・吉備人出版 (6)『栗木京子』1944円・青磁社 (7)『日本海の拡大と伊豆弧の衝突』1080円・有隣堂 (8)『おばぁタイムス』648円・沖縄タイムス社 (9)『菅浦文書が語る民衆の歴史』1620円・サンライズ出版 (10)『知られざる日本の地域力』1944円・今井出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。 URL: http://neil.chips.jp/chihosho/ ッイッター公式アカウント:@local_small

トピックス --- ★★★

▼今号は一面レポートで**周防大島のみず** のわ出版・柳原さんに御寄稿いただくとともに、10~11pにかけて「みずのわ出版食料部・つちのわ物産」の案内も掲載させていただきました。一冊まるごとみずのわ出版特集といったことになり、これを機にみずのわ出版、および、つちのわ物産が飛躍することを願うばかりです。

▼日本書籍出版協会・日本印刷産業連合 会主催の第49回造本装幀コンクールが、 1月30日より出品作品を募集していま す。出品作品は、すべて7月の東京国際 ブックフェアで展示されます。入賞作品 は、ライプツィヒで開催される「世界で 最も美しい本コンクール」に出品され、 その後世界最大の国際図書展であるフラ ンクフルト・ブックフェアで展示されま す。同コンクールは1966年に始まり半 世紀近く続く、出版、印刷、製本、装幀、 デザインの観点から書籍を総合的に評価 する、出版業界で唯一の賞。「美しい本」 づくりを目指す意欲を高め、広く内外に 日本の造本技術の素晴らしさを紹介し、 読書推進、出版産業の発展に貢献するこ とを目的としています。詳細は〈造本装 幀コンクール〉でネット検索を。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、 連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、 冊数の必要事項を明記のうえ、下記ま でFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182



三省堂書店

営業の ごあんない

神保町本店 4階 地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~8:00 PM 〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 TEL. 03-3233-3312(代)

URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

